

平成 25（2013）年度

文京学院大学人間学部  
FD 委員会報告書（概要）

人間学部 FD 委員会作成

# 平成 25 年度 人間学部 FD 委員会 報告書

あいさつ	p. 1
I FD 委員会の発足と課題	p. 1
II 今年度の活動の目的と概略	p. 1
III 活動経過と内容	p. 2
IV 今年度の FD 研修会を振り返って	p. 3
V 委員会議事録（第 1 回～第 8 回）	p. 4
VI 委員氏名	p. 12

## あいさつ（伊藤英夫 学部長）

FD（ファカルティ・デベロップメント）とは、文部科学省によると、大学教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みと定義されている。授業内容や方法の改善は、個々の教員において、これまでも行われていたことであろうが、組織的な取り組みという点が重要なポイントとなる。人間学部では今年度よりFD委員会を組織し、来年度からの本格的な取り組みの準備段階として、今年度はFD委員による授業参観と授業研究を実施した。学部全体で取り組むことで、様々な成果が得られ、今後の方向性も見えてきたと確信している。

## I FD委員会の発足と課題

平成25（2013）年4月1日から「文京学院大学FD・SD規程 第6条 3 各学部ごとに企画運営する学部FD研修は、学部の実態に応じて定期的実施し、以下の内容を中心に行う。（1）当該学部に必要な教育方法に関する研修（2）学生が主体的に学ぶ学習方法の研究に関する研修（3）教育法の研究事例（4）その他上記に関連する研修」が施行され、その規程をうけて全学FD委員会が設置され、下部組織として各学部にFD委員会が発足された。

全学FD委員長の森宮副学長より、各学部のFD研修に対して以下の3つの要望が出されて、全学FD研修会にて学部のFD研修の成果を発表することが依頼された。

- 要望
- ①相互の授業参観を実施すること
  - ②FD研修の実践記録（年報など）を作成すること
  - ③特にアクティブ・ラーニングを取り上げること

## II 今年度の活動の目的と概略

教員相互の授業参観を行うことで、教員の教育方法や授業技術の向上を図り、学部FD研修会にて報告することで、学部教員全体の教育技術の向上に寄与することを目的にした。

そこで、前期は、授業研究を試行しながら人間学部の授業研究方法を検討し、学部FD研修会に報告して意見を参考に策定した。後期は各学科のFD委員が授業研究を行い、後期FD研修会に成果を公表して、人間学部の教員全員が共有した。

（金子委員長）

### Ⅲ 活動経過と内容

実施日	FD 委員会（主な議題）	授業研究	研修会
平成 25 年 前期			
5/8(水)	第 1 回（授業研究の試案の検討）		
6/3(月)		金子委員長	
6/5(水)	第 2 回（金子委員長の授業研究の検討）		
7/3(水)	第 3 回（学部 FD の実施方法の検討）		
7/31(水)			学部 FD 研修会
後期			
10/2(水)	第 4 回 (学部 FD を経ての授業研究方法の再検討)		
10/15(火)		小林委員	
11/6(水)	第 5 回（小林委員の授業研究の検討）		
11/12(火)		中島委員	
12/4(水)	第 6 回（中島委員の授業研究の検討）		
12/13(金)		伊藤学部長	
12/20(金)		島田委員	
平成 26 年			
1/8(水)	第 7 回 (伊藤学部長と島田委員の授業研究の検討) (学部 FD の実施方法の検討)		
1/29(水)			学部 FD 研修会
2/12(水)	第 8 回（学部 FD 報告書の検討）		
2/27(木)			全学 FD 研修会

## IV 今年度の FD 活動を振り返って

教員の教授技術の向上を目指して、人間学部独自の FD 活動を行った。

前期には参観を伴う授業研究をモデル的に行い、実施方法を 7 月の学部 FD 研修会にて報告した。後期にはその実施方法に沿って FD 委員による参観を伴う授業研究を行った。2 月の学部 FD 研修会では、各学科の FD 委員が授業研究を報告し、全教員がグループに分かれて授業の工夫を話し合った。

この FD 委員会の 1 年間の活動についてアンケートを行った。後期 FD 研修会にて「②今年度の FD 委員会の活動は、前期に授業研究方法を策定して、後期に FD 委員が参観を伴う授業研究を行いました。この FD について」の回答を求めたところ、37 人中 19 人 (52%) が「a 良い」を選択し、14 人 (38%) が「b 普通」を選択していた。おおむね良好な評価が得られたと考える。

「a 良い」を選択した理由に、『具体的なモデルとして規模、目的が違う授業を提示され討論がしやすい』『方法としてはよい』『パワーポイントの資料配布の是非についても他の教員の意見が聞けた』『各学科の授業研究とグループ討議を行うことで課題が明確になってきた』『前・後期の関連がありよかった』『それぞれ異なる領域、形式の授業の取り組みを学ぶことができた』などがあり、授業の組み立てや資料提示などで教員の学びの機会となったと考えられる。また、『参観を伴う FD は全教員を対象に行ってもよいのではと思った』というように、授業研究の必要性を示唆する回答もあった。

また、同じくアンケートで、「③自分が参観を伴う授業研究を行うことについて」に対して、「c わからない」を選択した教員が最も多くて 21 人 (57%) であり、「b やってもよい」は 12 人 (32%) で 3 分の 1 もいた。今後、参観を伴う授業研究が定着することが予想できる。これは、組織的な FD 活動が活性する兆しとも受け止められ、今年度の FD 活動の成果が実感できた。

(金子委員長)

## V 委員会議事録（第1回～第8回）

### 第1回 FD 委員会 議事録

日時：平成25年5月8日（水）

場所：大会議室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、山村睦、島田栄子、小林宏美

欠席者：なし

#### 【議題と内容】

#### 1. FD 委員会設置の経緯と研修内容

金子委員長より、人間学部 FD 委員会立ち上げの経緯について説明がなされた。

FD 研修内容例として、「相互の授業参観」、「FD 研修の実践記録」、「アクティブ・ラーニング」等が挙げられた。

#### 2. 今年度の FD

人間学部 FD 日程として、前期7月31日（水）、後期1月29日（水）が確認された。

#### 3. マイクロティーチングの実施

詳細な指導案を作成して授業を行うことで教育技術の向上を計る教育方法であるマイクロティーチングを以下の要領で行うことが決定された。また、実践の内容について学部 FD で報告することとした。

第1回教授者：金子委員長

対象者：児童発達学科1年生約150名

実施日：2013年6月3日（月）1限「保育内容総論」

時間：40分

#### 4. FD 委員相互の授業参観

後期は FD 委員相互の授業参観をすることが決定された。各委員の後期勤務スケジュールをもとに日程調整されることとした。

#### 5. FD ハンドブック

FD 委員の学習の一環として、FD ハンドブックに全員が目を通しておくこととした。

次回 FD 委員会は、6月5日（水）16時～学部長室にて開催予定。

以上

## 第2回 FD 委員会 議事録

日時：平成 25 年 6 月 5 日（水）16:00~16:45

場所：学部長室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、山村睦、島田栄子、小林宏美

欠席者：なし

### 【議題と内容】

#### 1. 教育ソフトウェア大学 FD 勉強会について

小林委員が 5 月 10 日（金）に東洋大学で開催された大学 FD 勉強会について報告を行った。

#### 2. 第 1 回人間学部 FD 研修会の報告について

・金子委員長より、6 月 3 日（月）1 限に第 1 回人間学部 FD 研修会が実施されたことが報告された。学習者は児童発達学科 1 年生約 130 名であった。約 45 分間の授業の後、学習者と参観者（教員）は、授業についての評価を行った。

・参観した児童発達学科教員および FD 委員で検討会が行われ、アクティブ・ラーニングの課題や FD 活動のあり方および今後の方向性について意見が交わされたことが説明された。

#### 3. 学科 FD 活動について

学科会議等で FD 活動の取り組みについて周知を図り、授業参観のある FD 活動を行うよう働きかけることが確認された。

#### 4. Benesse 大学シンポジウムへの参加について

6 月 29 日に青山学院大学で開催されるシンポジウムには、金子委員長が出席することとなった。今後の FD 勉強については、委員の持ち回りで出席することが決まった。

次回の FD 委員会は、7 月 3 日（水）16 時に学部長室にて開催予定。

以上

### 第3回 FD 委員会議事録

日時：平成 25 年 7 月 3 日（水）16:00~16:45

場所：w300 s

出席者：金子智栄子、小林宏美、島田栄子、中島修

欠席者：伊藤学部長、山村睦

#### 【議題と内容】

#### 1. 平成 25 年度前期人間学部 FD 研修会について

前期 FD 研修会の日程が確認された。また、内容と役割分担についても検討され、下記のとおり役割が決定された。

日時及び場所：平成 25 年 7 月 31 日 15:00~16:30、大会議室

役割分担：

- ・司会（島田委員）
- ・FD の意義と重要性（小林委員）
- ・本学の FD の組織（小林委員）
- ・人間学部 FD 活動の経過報告と後期の予定（小林委員）
- ・授業研究会について－講義形式（130 人対象）の授業実践の検討－（金子委員長）
- ・パワーポイントなどの資料作成（助手）
- ・議事録の作成（助手）

#### 2. 経営学部 FD 研修会についての報告

7 月 10 日（水）の教授会において、島田委員が経営学部 FD 研修会について報告することとなった。

#### 3. 他学部 FD 委員の招待について

金子委員長より、本学 FD 研修会に他学部の FD 委員を招待することが提案され、今後検討していくこととなった。

#### 4. 学会等での成果の報告について

金子委員長より、授業研究で得られた成果を学会等で報告することが提案され、内容を検討した上で進めることとした。

次回の FD 委員会は 10 月 3 日（水）16 時～ 学部長室にて開催予定

以上



## 第4回 FD 委員会議事録

日時：平成 25 年 10 月 2 日（水）16:00～

場所：金子委員長研究室

出席者：金子智栄子、島田栄子、小林宏美

欠席者：伊藤英夫、中島修、山村睦

### 【議題と内容】

#### 1. 前期学部 FD 研修会について（改善し工夫すべき点など）

7 月 31 日に開催された FD 研修会について改善すべき点などが検討され、座席を参加者の自由にしたため、グループ内のメンバーがいつもと同じような顔ぶれになってしまったので、次回からは座席の配置を工夫することになった。

FD 研修のアンケートについては、「①人間学部 FD の進め方」と「②研修会全体」の質問項目に関して似たような回答がみられるので、質問文をもう少しわかりやすくしてアンケート内容を精査することとした。

#### 2. 教員の FD への意識向上について（学科への呼びかけ方など）

FD 研修会や授業研究の開催について、事前に各学科への呼びかけと事後報告を行い FD への教員の意識向上を図っていくことが決定された。

教員評価の必須の項目として入れるよう要望していくこととした。

#### 3. 後期授業参観日程について

後期の授業参観日が以下の通りに決定された。

10 月 15 日（火）1 限 国際関係論 小林委員

12 月 20 日（金）2 限 併設高校単位認定プログラムにおける授業 島田委員

#### 4. 大同大学の研究授業について

金子委員長より、大同大学の研究授業の取り組みが紹介され、研究授業報告の方法について参考にしていくことになった。

次回 FD 委員会は、11 月 6 日（水）16 時～ 学部長室にて開催予定

以上

## 第5回 FD 委員会議事録

日時：平成 25 年 11 月 6 日（水）16:00～17:00

場所：学部長室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、島田栄子、小林宏美、中島修

欠席者：山村睦

### 【議題と内容】

#### 1. 後期学部 FD 委員会（平成 26 年 1 月 29 日 16 時より約 2 時間の予定）について

後期学部 FD 委員会の進め方を協議した。内容としては、後期授業を行った各教員から報告を行った上で、グループ討議を行うこととした。

#### 2. 後期授業参観日程について

11 月 12 日（火）1 限 W201 中島委員 「地域福祉の理論と方法」

12 月 13 日（金）2 限 W206 伊藤学部長 「障害児保育演習」

12 月 20 日（金）2 限 C203 島田委員 「誰でもかかりうるこころの疾患」

各教員の日程を確認し、学科内に授業研究についてのアナウンスをメール等で行うことを確認した。

#### 3. 小林委員の授業研究（10 月 15 日 1 限の検討）

- ・学生の授業態度について協議がなされた。
- ・学部授業全体として、パソコンを使用する学生については、後日その内容を見せてもらうよう声掛けをすることで、使用を認めることにしてはどうかと協議した。
- ・資料の配付の有無について協議した。資料を配付するとノートを取らない学生が多い。
- ・パワーポイントを使用する際のノートの取り方や教室を歩き回る授業方法、リアクションペーパーの取り方等の意見交換を行った。

次回の FD 委員会は、12 月 4 日（水）16 時から学部長室にて開催予定。

以上

## 第6回 FD 委員会議事録

日時：平成 25 年 12 月 4 日（水）16 時～17 時

場所：学部長室

出席者：伊藤英夫、島田栄子、小林宏美、金子智栄子

欠席者：中島修、山村睦

### 【議題と内容】

#### 1. 後期学部 FD 研修会（平成 26 年 1 月 29 日 16 時より約 2 時間の予定）について

##### 1) 進行

授業研究の発表（40 分）

1 発表 10 分(発表 7 分、質疑応答 3 分) ×発表者 4 人

グループ討議（30 分）

全体質疑（20 分）

まとめ（5 分）

##### 2) 報告書は金子委員長の授業研究報告書の形式を参考にすることになった。

#### 2. 今後の授業研究の日程が確認された

12 月 13 日(金)2 限 W206 伊藤学部長「障害児保育演習」

12 月 20 日(金)2 限 C203 島田委員「誰でもかかりうるこころの疾患」

#### 3. 中島委員の授業研究（11 月 12 日 1 限）の検討

中島委員が提出した「資料・指導案・反省と評価」をもとに、授業を参観した金子委員長が代理で報告した。

#### 4. 人間学部 FD 報告書について

次回の FD 委員会に金子委員長から原案が提出されることになった。

次回の FD 委員会は平成 26 年 1 月 8 日（水）16 時からのセンター説明会終了後に学部長室にて開催予定。

以上

## 第7回 FD 委員会議事録

日時：平成 26 年 1 月 8 日（水）17 時 30 分～18 時 30 分

場所：金子委員長研究室

出席者：金子智栄子、小林宏美、島田栄子、中島修

欠席者：伊藤英夫、山村睦

### 【議題と内容】

1. 伊藤学部長の授業研究（12 月 13 日 2 限）  
島田委員の授業研究（12 月 20 日 2 限）の検討
  - ・伊藤学部長の授業研究報告書に基づき、金子委員長から授業内容について報告。  
特別支援教育の個別教育支援計画や個別指導計画作成を演習で行ったことの説明あり。
  - ・島田委員からは、授業研究でのポイントについて説明あり。金子委員長からの指摘に基づいて解説。金子委員長からも授業参観により気づいた点について指摘があった。
  
2. 後期学部 FD 研修会（平成 26 年 1 月 29 日 16 時より）について
  - 1) 進行について
    - ・授業研究の報告については、各自で資料を印刷して 60 部を用意する。
    - ・グループ討議については、教員 48 名を 7 グループに分ける。学科ごと等の配慮はしない。
  - 2) 討議の柱
    - ・授業構成、資料作成、出席の取り方、評価方法等、FD 委員から例示を行った上で、各グループで柱を設定して討議を行う。
  - 3) アンケート
    - ・FD 研修会当日のこと、今年度の学部 FD 委員会活動のこと、本人が授業研究を行うこと、以上、3 点についてアンケートを行う。
  
3. 人間学部 FD 委員会報告書について
  - ・原案について出席した FD 委員全員が同意。
  - ・授業研究報告の部分については、各自次回会議（2/12）までに資料を提出する。
  - ・授業研究報告資料は、1/29 の学部 FD 研修会の報告資料で可。

○次回 FD 委員会は、2 月 12 日（水）13 時から学部長室にて開催予定。

以上

## 第 8 回 FD 委員会議事録

日時：平成 26 年 2 月 12 日（水）11 時～12 時

場所：学部長室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、島田栄子、中島修、小林宏美

欠席者：山村睦

### 【議題と内容】

#### 1. 後期学部 FD 研修会の反省と評価

金子委員長より後期学部 FD 研修会について、アンケート結果にもとづいて講評があった。授業研究報告をもとにグループ討議を行う研修会や FD 委員が参観を伴う授業研究を行うことについて、約半分の教員から良いとの評価を得られたと報告があった。

次に、伊藤学部長、島田委員、小林委員、中島委員から、それぞれ今年度の活動を振り返っての意見が述べられた。

資格関連科目の多い学科においては、教員の授業内容に重なりが見られることがあり、学科内の教員間で内容の調整を図っていくこととなった。

#### 2. 平成 25 年度人間学部 FD 委員会報告書の検討

金子委員長より平成 25 年度 FD 委員会報告書案が提示され、それについて各委員から意見が述べられた。伊藤学部長に「あいさつ」を執筆頂くことと、各委員が FD 研修を振り返ってコメントを加筆することが確認された。報告書は冊子の形でまとめられることとなった。

#### 3. 来年度の FD 研修会のあり方について

各委員から、来年度の FD 研修会のあり方について意見が述べられ、来年度も基本的には今年度の内容を踏襲することが確認された。また、来年度は各学科から、2 名を FD 委員として参加してもらうことが決定された。

以上

## VI 委員氏名

コミュニケーション社会学科： 小林宏美

児童発達学科： 伊藤英夫（学部長）、金子智栄子（委員長）

人間福祉学科： 中島修、山村睦

心理学科： 島田栄子